

● 8月22日（月）～ 8月23日（火） 最終章（東北被災地を通過して帰宅した）

○ 8月22日（月） 陸前高田「奇跡の一本松」、石巻市「大川小学校」、仙台

・5時半に目が覚めた、良く寝た。道の駅「東和」の夜明けは周りには車が数台あるのみ。北海道のようにキャンピングカーが群れている光景とは無縁のようだ。台風の影響か天気はあまり良くない。

・今日は、午後仙台の友人N氏のお宅に行く予定なので、それまで東日本大震災の被災地を訪れたい。ここは東和だからもう久慈、田老から宮古など北の方は昨日の高速で通過してきてしまった。東和から近いのは釜石、大船渡あたりだが、そこに寄っていると仙台の友人宅へ行くのが遅くなるため、まだ拝見したことのない「奇跡の一本松」を見るため陸前高田へ行くことにした。

・途中から雨になった。雨の陸前高田の海岸線を走った。4年前に来た時はまだ道路が流されたままで通ることが出来なかったので、この道は初めて通ることになる。

震災後5年も経つのにほとんど復旧していない。海岸線の補修はやっているようだが、防波堤は倒れたまま、4階まで窓が吹っ飛んだ5回建てのアパート等の建て物はそのままだま放置されている。ただ盛り土された高台には学校らしい建物やアパートのようなものが経っているので、海岸の復旧より生活環境の整備を急いでいるのかと思われる。



防波堤やアパートは被災当時のまま残っている

・震災前は賑わっていたであろう道の駅「高田松原」は無残な姿を曝したまま放置されている。手が回らないのだろうか、諦めたのだろうか？

今雨が降っているし、雨にうたれて立つ廃墟のあまりの悲惨さを目の当たりにして涙が出てしまう。



無残な姿の道の駅「高田松原」

・すぐ隣に「奇跡の一本松」がある。今まで来たことが無かったので、今回は是が非でも寄らなければならないと考えていた場所の一つだった。

霧にかすみ雨に打たれて立つ「奇跡の一本松」破壊された時そのままの姿の建て物を後にして立つその姿が一層悲しく見えた。



・次は どうしてももう一度行ってみたいところ、石巻市の大川小学校へ向かった。

4年前に来た時と変わらずそのまま。変わったのは年月が経って建て物がかなり汚れたこと、立派な祭壇が作られていたことだ。

なぜこの裏山に逃げなかったのだろうか？ 裏山に登らずに北上川沿いに鉄橋へ向かい、先生・生徒のほとんどが流されて死んだ。なぜこの裏山に逃げなかったのだろうか？ あらためて何回も同じことを思った。残念だ。慰霊に訪れている人が絶えない。



北上川に沿って大川小学校へ向かう



新設の祭壇



なぜこの裏山へ逃げなかったのか？ なぜ奥の北上川方面へ逃げたのか？



・高速を飛ばして仙台へ入り、泉区のN君宅に2時過ぎに着いた。何回も伺っているが、お宅も周辺も殆ど変わらず静かで良い所だ。近所にセブンイレブンが出来たので便利になったそうだ。旅行の話や健康の話など積もる話がいっぱいだが、2時間くらい話に花を咲かせておいとしました。

・今夜泊まる予定は道の駅「村田」。なんと今夜台風が仙台を直撃するという。台風の影響か、村田に着いたら一寸先も見えないほどの土砂降りの大雨。何もできない。おまけに風も吹いてきた。

トイレのそばに横付けで駐車し、車内で夕食を簡単に済ませ早々に寝た。外は暴風雨だ。

・真夜中に台風は通過したらしく、トイレに起きた時は風雨は収まり月も顔を出していた。

○ 8月23日(火) 相馬から原発被災地を抜けいわき市。日立から高速に乗り無事帰宅した。

・朝4時20分起床。台風一過の快晴だ。4時半起床したがまだ薄暗い。今回の旅を始めた時は4時には明るかったが、ずいぶん日の出が遅くなったな。秋が近付いている感じがする。

・村田から国道6号線に出て南下し相馬へ、そして台風一過の快晴猛暑の中を南相馬へ。

4年前に被災地巡礼をした時は、原発放射能の規制でここから南は通行止めになっていて、いわき市の四ッ倉まで山側に迂回させられた。そのため南にある浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町、広野町は訪問できなかった。今回は規制は解かれて国道6号線は全線通行できる。ところが通行規制は解かれてもまだ帰宅困難地域のため、ただ通れるだけで、国道から町へ入る道は全てゲートで閉ざされ、警察や係員が待機している。かわいそうに、道路沿いの家屋や店舗はすべて閉ざされ朽ちている姿も見える。



とにかく放射能危険地帯を通りぬけるまで車を止めることが出来ず走り続けなければならないので、前の車に続いて黙々と通りぬけた。いつ正常に戻れるのだろうか。



道の両脇はゲートで閉ざされ、店舗も民家も雑草に覆われ悲惨な姿を曝している

・4年前の被災地巡礼のスタートとなった四ッ倉港に9時半に到着した。あのときは道の駅「よつくら港」が津波で流されていて、大きなテントを張って仮営業をしていた。今では立派な道の駅が出来ていて、大きなテントはそのまま同じ所に立っていた。そのテントの横で泊まったな。懐かしく思い出された。



・四ッ倉港もすっかり改修され港の営業を行っていた。ここ四ッ倉もまだ震災・津波の被害からの復興途中で復興計画の完成図が掲示してあった。



・4年前には地震と津波の被害で階段が崩れて登れなかった塩屋崎の灯台へ行った。今回は階段も補修され灯台へ登ることが出来た。灯台へ登って太平洋の荒波と復興最中の海岸を上から眺めた。風が強くて灯台が揺れているような感覚を覚えた。



・灯台へ行く途中で見た、津波に洗われて土台だけ残し、跡方も無くなった街並みや、無残な姿を曝していた豊間中学校の校舎と体育館などはすっかり取り払われていて、更地になっていた。以前の面影がすっかり変わっていて何か無機質の侘びしさが漂っていた。



・美空ひばりの「みだれ髪」はこの塩谷崎が舞台で、その碑が建っており「みだれ髪」の曲が流れていて思わず口ずさんだ。



・さあ これで全て終わった。帰宅の途につこう。

国道 6 号線を我が家へ向けて南下したが、台風が抜けた後も天候不安定で、途中豪雨に何回も見舞われ、豪雨を抜けると晴天になりまた豪雨を抜けると晴天になるという繰り返しだった。特に日立付近では前が見えないほどの激しい雨が降り難儀した。

日立中央から高速道路に乗り一気に我が家へ急いだ。

途中友部で休憩しただけで、首都高速、東名高速を通過して 5 時過ぎに我が家へ無事到着した。

○長い長い北海道の旅が終わった。

・台風の影響をうまく避けながら行動し、結果的には晴天に恵まれたことが多く、いい山旅だった。

・今 北海道は台風の直撃を受けており、道央、道北、十勝周辺は記録的な大雨になっているようで、石狩川が一部氾濫したりして、北海道中が水浸しの状態らしい。  
ジャガイモやトウモロコシなどの農作物の被害が甚大だ。

私は幸いにも最悪の状態になる前に北海道を離れることが出来た。

早く天気が回復して、天候が安定してくれることを祈るばかりです。

完